

23年度スマート農業実証プロジェクト

東海4県新たに3地区

農水省のスマート農業実証プロジェクトで東海4県（岐阜、静岡、愛知、三重）で2023年度、新たに3地区が採択された。スマート農機や情報通信技術（ICT）を使い、化学肥料・農薬や化石燃料の使用量削減などを目指し、24年度までの2年間で効果を実証する。採択されたプロジェクトは、同省のパンフレットで公表された。

環境保全型確立へ

岐阜県では、水稲・大豆栽培で環境保全型

農業の確立を目指す。エイドスタッフ（岐阜県飛騨市）を代表に、県やJAひだなどで実証する。1区画50㍏の

大規模圃場（ほじょう）を対象に、営農管理システムや施肥・防除用ドローンなどを活用し、生育むらの発生

燃油25%減めざす

愛知県では、JA西三河いちご部会の部会員や農研機構などがイチゴの生産から販売までのスマート体系を実

を防ぎながら、化学肥料・農薬の使用量を削減する。化学肥料は水稻で3割減、大豆は8割減を目標にする。

証する。局所環境制御やヒートポンプを使い、収量増と燃油使用量の25%減を目指す。バック詰めでは、新たな選果システムなどを用い、作業時間の20%減を目標とする。

CO₂と熱再利用

三重県

三重県では、アグリッド（三重県いなべ市）とデンソー（愛知県刈谷市）が暖房ボイラーから排気される二酸化炭素（CO₂）と熱を再利用したミニトマト栽培を実証する。排気熱の回収システムと窒素酸化物浄化システムを使い化石燃料の使用量を4%削減、化石燃料由来のCO₂使用量の50%削減を目指す。

◇ 同プロジェクトは19年度に始まり、東海4県では23年度を含め、25地区が採択された。